

第36回全国公民館セミナーに参加して

半田市生涯学習課 鰐部亮太

1

自己紹介

名前：鰐部 亮太（わにべ りょうた）

所属：半田市教育委員会生涯学習課
瀧上工業雁宿ホール（半田市福祉文化会館・中央公民館）

経歴：令和6年度入庁 生涯学習課（2年目）

2

開催概要

主 催：公益社団法人 全国公民館連合会

日 時：令和7年2月19日（水）
～2月21日（金）

会 場：丸の内マイプラザホール
（東京都丸の内2-1-1）

参加者：全国各地から約60名



3

テーマ

「ツナガルシクミ」
をみんなでつくる

4

スケジュール

○1日目（2月19日）

- ・講義「文部科学省における公民館をめぐる動き」
- ・シンポジウム「公民館のツナガルシクミのデザイン」

○2日目（2月20日）

- ・ワークショップ 「ツナガル公民館をみんなで考える」

○3日目（2月21日）

- ・事例発表「公民館のツナガルシクミの実際」
- ・ワークショップ

5

1日目（2月19日）

○講義「文部科学省の公民館をめぐる動き」

講師：榎木 奨悟 氏

（文部科学省総合教育政策局地域学習推進課）



○シンポジウム「公民館のツナガルシクミのデザイン」

講師：藤 浩志 氏（秋田公立美術大学教授）

宮城 潤 氏（那覇市若狭公民館館長）

永田 宏和 氏（デザイン・クリエイティブセンター神戸センター長）

6

シンポジウム 「公民館のツナガルシクミのデザイン」

講師：那覇市若狭公民館 宮城 潤 氏

「パーラー公民館式・ツナガルシクミ」

○パーラー公民館とは

- ・ 移動型公民館
- ・ 生活圏に公民館のない地域に出向く

7

シンポジウム 「公民館のツナガルシクミのデザイン」

○パーラー公民館式・ツナガルシクミ

- 1 知ってもらう（認知）
- 2 関わりたいと思ってもらう（興味関心）
- 3 安心できる場所（居場所）
- 4 アイディアが実現できる（自己実現）
- 5 成功体験を重ねる
- 6 振り返り共有

8

シンポジウム 「公民館のツナガルシクミのデザイン」

○「安心できる場所」にするためには、、、

- ・ 入りやすくて抜けやすい雰囲気
- ・ キーパーソンの存在
- ・ 学校や地域との連携

9

シンポジウム 「公民館のツナガルシクミのデザイン」

講師：デザイン・クリエイティブセンター神戸 永田 宏和 氏
「『俯瞰』とクリエイティブ思考で作る『ツナガルシクミ』」

○地域関係の俯瞰

地域や周辺の様々な関係者の存在に気付くことができる。

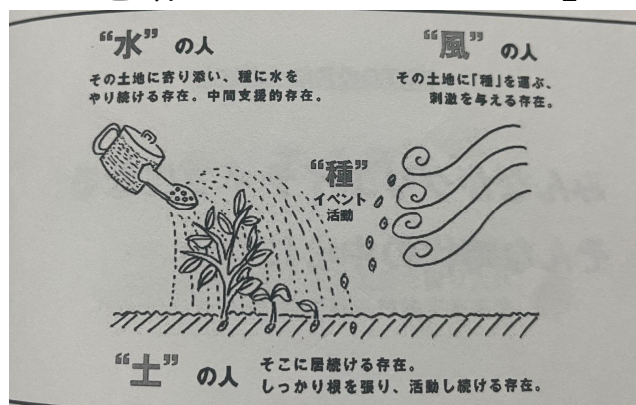
○時間軸の俯瞰

活動はゴールではなくプロセス。
その後の拡がりを意識して、
企画することが重要

10

シンポジウム 「公民館のツナガルシクミのデザイン」

○永田氏が考える、地域が「ツナガルシクミ」とは、、、



11

シンポジウム 「公民館のツナガルシクミのデザイン」

『土』の人…地域住民

⇒ 『水』がないと『種』が成長しない

『種』 …地域での活動やプログラム

『水』の人…地域を支援する人（自治体など）

『風』の人…地域に新しい風を運ぶ存在

12

シンポジウム 「公民館のツナガルシクミのデザイン」

強い『種（地域での活動・プログラム）』

を作るためには、、、

○不完全プランニング

- ・関わり代を作る
- ・余地をつくる

○+クリエイティブ

- ・魅力化する
- ex) 「夢のような～」 「わくわくする～」 など

13

2日目（2月20日）

○ワークショップ「ツナガル公民館をみんなで考える」



ファシリテーター：青山 鉄兵氏
（文教大学人間科学部准教授）

14

ワークショップ 「ツナガル公民館をみんなで考える」

○テーマ：「地域づくり」が目指すゴールで起きていそうなこと

各グループに分かれ、用意された付箋に
自分の考える「地域づくり」のゴールを記入。



模造紙に、付箋を貼って意見を共有。

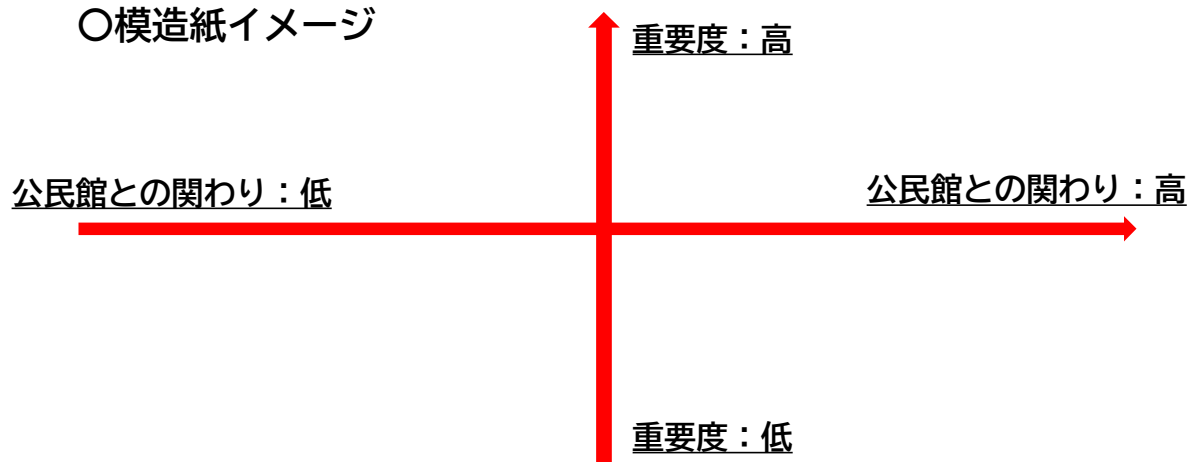


模造紙上で、①重要度、②公民館との関わり
の2軸で付箋を分類する。

15

ワークショップ 「ツナガル公民館をみんなで考える」

○模造紙イメージ



16

ワークショップ 「ツナガル公民館をみんなで考える」

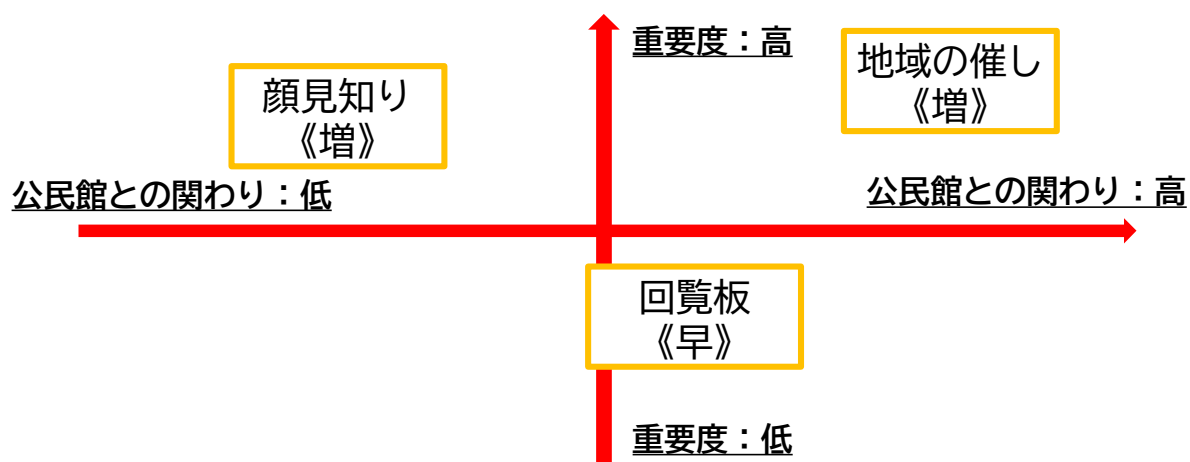
○地域づくりのゴールの例

- ・地域の催しが頻繁に行われる
- ・地域に顔見知りの人が増える
- ・回覧板が早く回る

など、、、

17

ワークショップ 「ツナガル公民館をみんなで考える」



18

ワークショップ 「ツナガル公民館をみんなで考える」

○ワークショップを通じて、、、
公民館だからこそできる「地域づくり」を考えるきっかけとなった。

○公民館が実施する事業の中で、
いかに参加者がつながるための仕掛けを用意できるか

○「何をするか」よりも「何のためにするか」が重要

19

3日目（2月21日）

○事例発表「公民館のツナガルシクミの実際」

講師：出口 亮太氏（長崎市北公民館長）

小松 茂美氏（大阪狭山市立公民館チーフ）



20

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

講師：長崎市北公民館・チトセピアホール館長
出口 亮太 氏

〈長崎市北公民館・チトセピアホール 概要〉

- ・複合施設チトセピアの中に併設
- ・500席のホールや貸室機能あり
- ・文化芸術を楽しみ、交流するコミュニティの拠点

21

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

○北公民館のSWOT分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	《強み》 ノウハウの蓄積・人的蓄積 公共の概念の理解	《弱み》 事業の固定化 発信力の弱さ
外部環境	《機会》 地域との継続的な連携 地域における存在感	《脅威》 利用者数の減少 利用者の高齢化

22

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

○SWOT分析からわかること

マイナス要因

- ・事業の固定化
- ・利用者の減少、高齢化



事業内容・利用者層を
共にに広げる必要がある

「公民館側で変えられるところ＝講座や講師」から革新

23

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

○実践例

冬のオムニバス講座「北公民館の冬じたく」



24

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

- 「年末年始のお家時間を楽しく過ごすための冬じたく」というテーマで一貫性
- 近隣の小学校に案内を配布⇒子どもを通じて保護者がWEBで応募
- 新規講座の立ち上げと新たな講師の起用
⇒未来の公民館を担う講師の育成
- 既存の講座も新たな講座と共に打ち出すことで、新規受講者を獲得

25

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

講師：大阪狭山市立公民館チーフ（指定管理者アクティオ株）

小松 茂美 氏

〈大阪狭山市立公民館 概要〉

- ・大阪狭山市唯一の公民館
- ・管轄：大阪狭山市教育委員会生涯学習グループ
- ・運営：アクティオ株（指定管理）
- ・貸室15部屋、プラネタリウム室

26

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

○市民発信の企画

ASOBOSAI（あそぼーさい）

企画会議の場を開くことで、参加した市民の方々の
想いが見えてきて、対話を通してカタチになっていく

27

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

○公民館から生まれた団体の存在

公民館で実施する講座をきっかけに生まれた団体が、
つながりを広げて現在も活動している

28

事例発表 「公民館のツナガルシクミの実際」

○「やってみたい」想いを「やってみる」につなぐ

市民や団体、学校からの「こんなことがやってみたい」という声を、できる限り「やってみる」ことにつなげる

「やってみる」のあとは、公民館主催で継続するのではなく、公民館を介さなくても、それぞれの地域での活動につなげるよう働きかける

29

まとめ

○テーマ「ツナガルシクミをみんなでつくる」

〈公民館で「ツナガルシクミ」をつくるには？〉

地域とのつながりが必要不可欠。

事業に「地域づくり」の視点をどう組み込むかが重要となる。

- ①既存の事業を「何のために」という視点から問い直す
- ②「目指すべき地域のあり方」を具体的に捉える
- ③目的に応じて事業をアレンジしていく

30

ご清聴ありがとうございました。